





三春

春は人の心も春の如く
あはれなるものなり

春は人の心も春の如く
あはれなるものなり

春は人の心も春の如く
あはれなるものなり

初春と云ふは春の初
めなりは春の初めなり

春は人の心も春の如く
あはれなるものなり

春は人の心も春の如く
あはれなるものなり

春は人の心も春の如く
あはれなるものなり

春は人の心も春の如く
あはれなるものなり

春は人の心も春の如く
あはれなるものなり

春は人の心も春の如く
あはれなるものなり

橋は白

月夜に橋は白く
静かに流るる水

田舎の月

田舎の月夜は静かに
流るる水

田舎の月夜は静かに
流るる水

藤原の月

藤原の月夜は静かに
流るる水

月夜は静かに

月夜は静かに流るる水

月夜は静かに流るる水



清澤文庫

ふんりり東の隅の社

下枝を垂るほゆゆら

早廊

いんじん雪の境いもさら

かたろひせんぶの早廊

待花

青柳のよもぎの早廊

ほろろの雪の早廊

夜花思

花の香の早廊

ねむれはらの早廊

社頭花

花の香の早廊

花の香の早廊

早花自暮

花の香の早廊

花の香の早廊

雪

雪の香の早廊

雪の香の早廊

雪鳥

雪の香の早廊

九月晝

雪の香の早廊

雪

雪の香の早廊

雪の香の早廊

氷

氷の香の早廊

氷の香の早廊

大雪

大雪の香の早廊

大雪の香の早廊

雪散

雪散の香の早廊

雪散の香の早廊

雪

雪の香の早廊

雪の香の早廊

雪電

雪電の香の早廊

雪電の香の早廊

雪時雨

舞臺の雲の影

湯島

舞臺の雲の影

まんなかの

真春

まんなかの

まんなかの

夏木

花の香

あまの

三夏

あまの

あまの

卯花

卯の花

あまの

遠村卯花

船の

あまの

卯花

あまの

あまの

舞臺の雲の影

湯島

舞臺の雲の影

まんなかの

真春

まんなかの

まんなかの

夏木

花の香

あまの

あまの

三夏

あまの

あまの

卯花

卯の花

あまの

遠村卯花

船の

あまの

卯花

東の...
*東の...
...*

久の...
*久の...
...*

雲の...
*雲の...
...*

侍侍鳥
*侍侍鳥
...*

徳の...
*徳の...
...*

や...
*や...
...*

心...
*心...
...*

や...
*や...
...*

日...
*日...
...*

上...
*上...
...*

秋...
*秋...
...*

宮...
*宮...
...*

下...
*下...
...*

遠...
*遠...
...*

ほ...
*ほ...
...*

松...
*松...
...*

境...
*境...
...*

ち...
*ち...
...*

や...
*や...
...*

月...
*月...
...*

心...
*心...
...*

く...
*く...
...*

雨...
*雨...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

宇...
*宇...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

風...
*風...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

月...
*月...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

宇...
*宇...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

書...
*書...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

心...
*心...
...*

...
...

くえの...
...

酒

...

...

閑路時鳥

...

...

花橋

...

...

...

橋童枕

...

...

...

心月司

...

...

藤と目玉

...

...

雲

...

...

松下

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

赤被

...

...

秋

...

...

視

...

...

皆らばしよ 中目録の巻

巻

獨後の巻も國のくわん

はれて宮にわづれまら
昔の事にして今もかゝる事あり
よはひしや

松下を涼

夕まゐるの村、書きて
おろし涼しうら

泉邊絶涼

雲伝の古井は木陰を
夏のおもしろく

日夏お涼日

境のわづれはく国に
わづれはく国に

雨後白明

心もわづれはく跡に
心もわづれはく跡に

六月被

ふきつる夏はく日
ふきつる夏はく日

三林

三林のわづれはく
三林のわづれはく

初林

初林のわづれはく

そふゆふ生らるる年毎

ふふゆふ生らるる年毎

世尊のくわん大衆の昔に

言ふ事過不丁思議阿僧祇劫に

過て佛よりまゝの雲雷宿王佛に

名付せてらるる彼佛の法に

王あり妙莊嚴王といふ其王の

をく津波のくわん二人の

一津藏二津眼彼二子大邦を

福徳智恵有て菩薩の道に

ふれ悉くの了通達一亦二

達也尔時彼佛妙莊嚴王に

二導一及んば其の

語する故くは華經に演説

の時津波津眼彼母所を

みて自云願く二子彼佛より

成て出家せんや且亦母を

佛のくわん往消のくわん

一切往生のくわんは華經に

をく津波のくわんは

る云はれ父の外道に信受

婆羅門の法に母をせり願く

津波のくわんは父の愛をせ

我が佛所にあんが

てんがくわんは

の故く虚言の確なり檀を

現すや以得てらるる父の

阿耨多羅三藐三菩提の心は

三つは...
後...
...
...

後...
...
...

初林...
...
...

婦...
...
...

も...
...
...

林

跡...
...
...

い...
...
...

と

と...
...
...

あ...
...
...

女郎花...
...
...

松...
...
...

あ...
...
...

跡...
...
...

い...
...
...

秋...
...
...

跡...
...
...

朝...
...
...

い...
...
...

細

細...
...
...

い...
...
...

の故...
...
...

阿...
...
...

皆...
...
...

慈...
...
...

凡...
...
...

初...
...
...

大...
...
...

松...
...
...

朝...
...
...

家...
...
...

他...
...
...

各...
...
...

因...
...
...

其...
...
...

行...
...
...

あ...
...
...

下... 終...

思ひ花

思ひ花... 花の影...

夜半の月

夜半の月... 月影...

月夜夜友

月夜夜友... 月夜...

洞窟の月

洞窟の月... 洞窟...

雲霞の月

雲霞の月... 雲霞...

貴族の月

貴族の月... 貴族...

浄土の月

浄土の月... 浄土...

老人の月

老人の月... 老人...

受く... 所謂良醫... 行の... 或神社...

時... 命... 遺... 遺... 草...

一... 権... 常... 異... 及...

一... 権... 常... 異... 及...

一... 権... 常... 異... 及...

一... 権... 常... 異... 及...

一... 権... 常... 異... 及...

一... 権... 常... 異... 及...

一... 権... 常... 異... 及...

一... 権... 常... 異... 及...

淨信日月

誓心奉りつづる月を

つづる月を

無人歌月

ふらふらとくはる月

ふらふらとくはる月

こころ思ひ月

こころ思ひ月

空同長月

空同長月

空同長月

青月

青月

青月

跡月

跡月

跡月

月亦遠湯

月亦遠湯

月亦遠湯

灼火輝月

灼火輝月

灼火輝月

賢者之の心はくは一様大行也
又古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

又た古語射遠久遠法名法名由院
一夢大醒也 身

くさくさたるらなる白露

月亦遠過

秋風ははる小鳥の音清く

あはれ浦の月もあま

月亦輝月

指しし

あはれ浦の月もあま

あはれ浦の月もあま

月亦流水

駒の足音は山行の

あはれ浦の月もあま

あはれ浦の月もあま

あはれ浦の月もあま

其書莊色の首ら花柳真の書
せしむるやうに其節はあまの
の字も海あまのしりかた
は尊野の中へ小鳥の音はあま
あまの南を釋迦年尼佛のま
丁へ歸るやうにあまの音
あまの音はあまの音

元禄八乙曆
謹上禮拜
清澤氏運兵衛興也

曾大父遺墨詠草二卷傳在伯兄羅文君送選

中寛政戊午仲秋伯兄易篋之後至於解藏亦

久矣唯恐久而後喪之因合二卷以為一軸按初

草一百零一歌是 曾大父延寶天和間所詠何

者釋教下有其前婦人大祥忌追悼之歌蓋

曾大父前婦人某氏釋跡圭山妙自信女者延寶

八年庚申冬十一月二日天由此觀之其追悼之七

歌乃天和二年壬戌十一月上浣所詠無疑矣

嘗產二女母子皆短命長則元禄二年己巳八月四日天釋跡曰

涼月惟清信女次則貞享元年甲子五月二十四日殤釋跡曰露

清善童女蓋追悼歌中稱 獨於詠草中施雌黃者未知

何人耳後草則元禄八年乙亥月日所詠不誤愚致既

見書中 曾大父諱興也小字久米之助及長稱運兵
衛跡信清軒瀧澤秋圓君第字妣某氏 釋跡有胞兄弟
數人 曾大父亦自髫歲仕故河越侍從源信綱朝臣無

曾大父遺墨詠草二卷傳在伯兄羅文君遺篋
中寬政戊午仲秋伯兄易篋之後至於解藏亦
久矣唯恐久而後喪之因合二卷以為一軸按初
草一百零一歌是 曾大父延寶天和間所詠何
者釋教下有其前婦人大祥忌追悼之歌蓋

曾大父前婦人某氏釋跡圭山妙自信女者延寶
八年庚申冬十一月二日夭由此觀之其追悼之七

歌乃天和二年壬戌十一月上浣所詠無疑矣解又考前婦人

嘗產二女母子皆短命長則元祿二年己巳八月四日夭釋跡曰涼月惟清信女次則貞享元年甲子五月二十四日殤釋跡曰露清善童女蓋追悼歌中稱嬰兒者謂其次女露清歟獨於詠草中施雌黃者未知

何人耳後草則元祿八年乙亥月日所詠不誤愚政既見書中 曾大父諱興也小字久米之助及長稱運兵

衛跡信清軒瀧澤秋圓君第三子此某氏釋跡良節有胞兄弟

數人 曾大父亦自髫歲仕故河越侍從源信綱朝臣無

幾侍從季子松平賴母外源堅綱主受分拆因隸於其家為補佐之臣

在職五十有餘年矣歷仕主家四代無所愆享保元年

丙申冬十月二十八日没享年七十餘歲塋江戶小石川茗荷

谷深光寺浮屠贈號曰願譽獲念唯稱居士其後 曾大

母是則曾大父後婦人越前家臣某氏女享保六年祈之辛丑十二月十七日没釋跡順譽至心負教大師嘗傳之

口碑 曾大父稟性老實深信釋教且好詠國風今所遺詠

草是已此非崑山之片玉邪因表裝以畀吾兒孫

文政六年癸未春二月 曾孫 瀧澤解謹識